

はじめに

緒言

調査概要

調査結果

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

I 緒言

「建築は社会の記憶装置である」

古谷誠章

一般社団法人 日本建築学会 第55代会長
早稲田大学教授

「近現代の貴重な建築遺産である旧都城市民会館の解体と学術調査報告書の刊行について」

苅谷勇雅

日本イコモス国内委員会 (ICOMOS Japan) 副委員長

「建築を大切に思う気持ちを育てるために」

村松伸

都城市民会館1000の記憶プロジェクト発起人
城西国際大学特任教授
東京大学名誉教授

はじめに

1. 緒言

緒言

「建築は社会の記憶装置である」

古谷誠章

一般社団法人 日本建築学会 第55代会長

早稲田大学教授

調査概要

調査結果

都城市民会館は、市政40周年を記念して1966年に開館し、市民の芸術文化の拠点として、また成人式や結婚式など市民に身近な場としても大いに親しまれてきた。今でも日本のメタボリズム建築の最重要作品の一つである。菊竹清訓によるその独特な造形は、わが国のみならず、世界中の建築ファンが訪れたい建築のひとつとなるなど、国外にも広く知られた貴重な財産でもあった。都城市に育ち暮らした人々にとっては、ふるさとの記憶となり、都城を訪れるビジターにとっても、この地を象徴するランドマークとなっていた。

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

2006年に新しい都城市総合文化ホールが開館して解体が議決された。その後一旦借り手が現れたのだが、約10年間未利用のまま結局は返還の意向が示されたため、保存を要望していた日本建築学会に対し都城市から2018年に解体へ向けての挨拶があった。都城市としては、解体の議決から10年以上が経過していたため、再度市民の意向をアンケートにより確認した上で、同年8月ごろまでに解体の方針を決定することだった。私は当時の建築学会長として緊急性が高いと判断し、都城市民会館再生活用計画検討特別委員会を立ち上げて、歴史意匠、計画、法規、構造、防火、施工、コストの各面から調査をし、再生の提案と助言を行うこととした。都城市からは単なるアイデアの提案でなく、市の財政事情を踏まえた上で、事業計画などに裏付けられたより具体的な提案が求められた。事業性を持ってその活用を図れる主体を募るべく、可能な限り正確な資料と具体的な活用イメージを付した報告書をまとめて事業者呼び掛けしたが、限られた時間内にそれを決断できる企業は、残念ながら地元企業を含め一社も現れなかったために、今日その姿は既になくなっていく。

建築とは人々の生きる社会にとってつくづく「記憶装置」であると思う。もちろん本体がその場に残るに越したことはない。しかし、その記憶を少しでも正確に、少しでも深く、具に記録にとどめることがとても大切であり、このたび本報告書を企画し、その作成に携わったすべての関係者に心から敬意を評したい。

私たちはこの記憶を辿り、この記録に学んで、再びこうした轍を踏まぬよう不断の努力をしなくてはならない。そのためには文化財の所有者である個人や企業や地方自治体ばかりに頼るのではなく、今後は国の文化財行政としても積極的に所有者に働きかけて、わが国全体の財産としての文化遺産を保全することを心掛けていただきたい。

はじめに

緒言

調査概要

調査結果

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

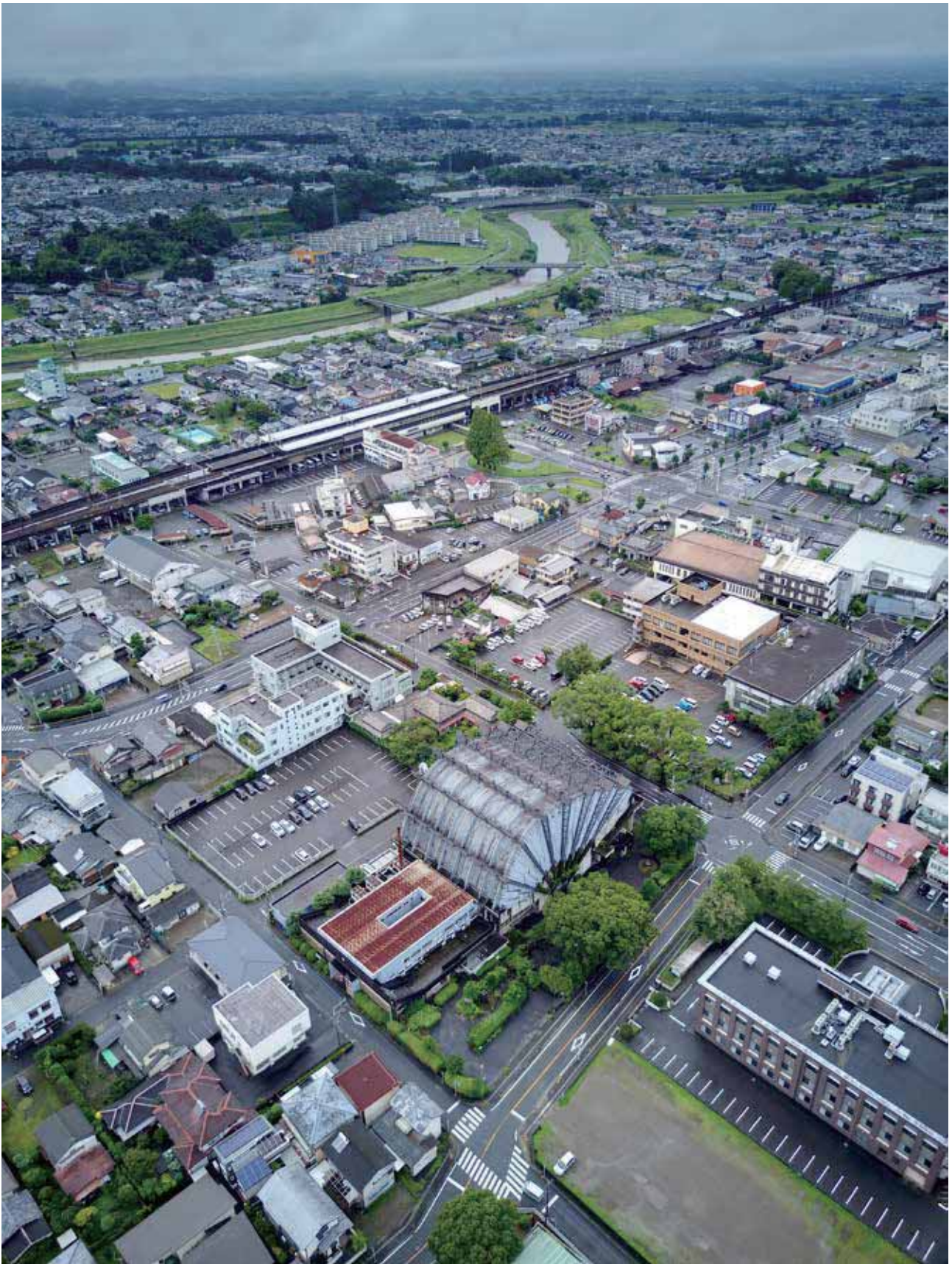


Fig.1-2.2019年解体前の旧都城市民会館の様子 撮影：米野雅之

はじめに

1. 緒言

緒言

「近現代の貴重な建築遺産である旧都城市民会館の解体と学術調査報告書の刊行について」

苅谷勇雅

日本イコモス国内委員会 (ICOMOS Japan) 副委員長

調査概要

調査結果

私たち日本イコモス国内委員会は、旧都城市民会館の解体計画に対して早くから国際イコモスや日本建築学会等と連携して、都城市に対してその存続に向けて様々な働きかけを行ってきた。都城市や市民、専門家の保存活用に向けた長年の努力にもかかわらず旧市民会館の解体撤去が不可避となった時、日本イコモスは都城市に対して、この貴重な文化遺産の価値を将来に伝えるための詳細な学術調査報告書の作成が必要と訴えた。これに応じて、都城市は速やかに関連予算の内容を変更して報告書の刊行の決断をした。そして日本建築学会に調査報告書の作成を委託し、日本イコモスも監修という立場で加わることとなった。

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

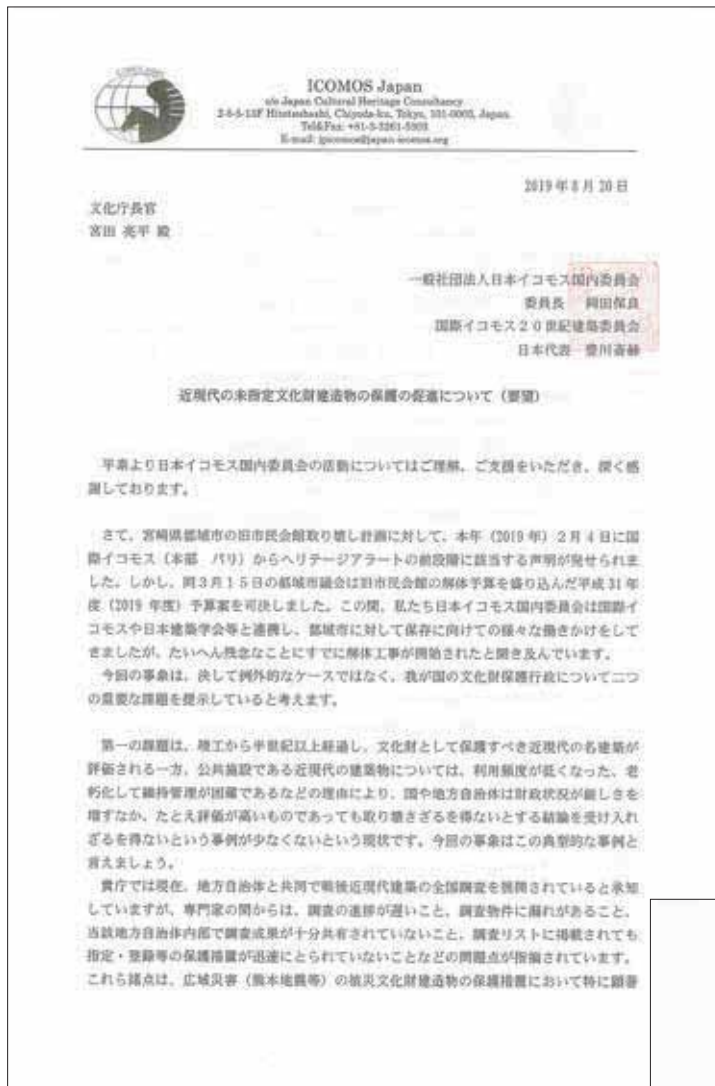
一方、日本イコモスは、旧都城市民会館の解体の危機に直面して、岡田保良（委員長）及び豊川斎赫（国際イコモス20世紀建築委員会日本代表）の連名で、2019年8月20日に文化庁長官に対して「近現代の未指定文化財の保存について」と題する要望書を提出した。

この要望書では2つの重要な課題について指摘している。

第一の課題は、文化財として評価が高い近現代の名建築が、国や地方自治体の公共施設であっても、その財政状況等から取り壊さざるを得ない場合が少なくないことである。旧都城市民会館は、まさにその象徴的な事例である。私たちは文化庁に対して、近現代の建造物について総合的な調査で価値を明らかにし、必要な場合には文化財としての指定・登録等を行い、財政措置も含めた効果的な保存活用施策を速やかに展開するよう要望した。

第二の課題は地方自治体の文化財保護審議会の役割についてである。地方文化財保護審議会は、これまで当局からの諮問案について調査審議することが中心で、新たな文化財保護施策や指定・登録等について自ら建議することはほとんどなかった。旧都城市民会館の存続についても残念ながら審議会の正式の審議事項となることはなかった。一昨年に改正された文化財保護法は、自治体が未指定等も含めた価値ある文化財を総合的に把握し、計画的に保存活用に取り組みよう要請しているが、これに伴い地方文化財保護審議会への期待も大きくなっている。地方文化財保護審議会がその役割を十分果たすよう、文化庁からの積極的な助言と指導を要望した。

この詳細かつ充実した学術調査報告書の作成・刊行に尽力された都城市、建築学会及び関係の方々の努力に深く敬意を表するとともに、今後、貴重な文化財が消滅するという事態が生じないよう、上記の私たちの文化庁への要望も含めて、関係の方々とともにいっそう努力していきたいと考えている。



- はじめに
- 緒言
- 調査概要
- 調査結果
- 市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯
- 資料編

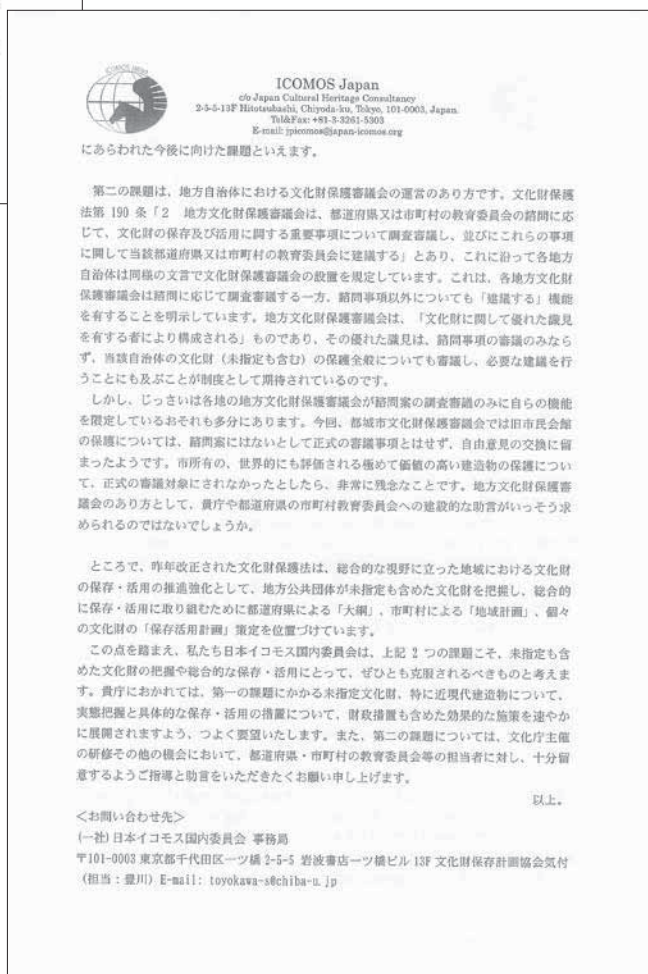


Fig.1-3. 文化庁長官宛に提出した要望書「近現代の未指定文化財建造物の保護の促進について (要望)」

はじめに

1. 緒言

緒言

「建築を大切に思う気持ちを育てるために」

村松伸

都城市民会館1000の記憶プロジェクト発起人

城西国際大学特任教授

東京大学名誉教授

調査概要

調査結果

宮崎空港に降り立って一路都城の街に入った。2019年1月のことだった。車のフロントガラスの向こうに都城市民会館の建物がにゅっと眼前に現れた時、わたしは驚喜した。東京オリンピック、大阪万博を子供の頃体験していたから、メタボリズムの建築家と彼らが建てた建築に条件反射のごとく反応してしまう。だが、初めて訪れた都城で市民会館は必ずしも評判はよくなかった。撤去と保存に揺れていた時であったからだった。建物は荒廃し、錆に覆われ、扉は固く閉ざされていた。少数の熱狂的な保存派と撤去を進める行政の対立、しかし、市民のほとんどは無関心であった。

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

私は建築史を専門としているが、だからといって建物をすべて保全すべきだとは思っていない。生まれたものは消えていくというのが宇宙の摂理なのだから、それに抗うことには相応の論理と責務が必要で、その考究こそが私の専門家としての役割だとも思っている。新陳代謝をめざすメタボリズムとはまさにそのことを言っている。街を歩いて無作為に出会ったひとびとに尋ねてみると、建物への評価はとても低い。一方で、成人式、結婚式、コンサート、さまざまな記憶と市民会館はつながっていることは驚きだった。建物の継承の目的は、社会の未来を豊かにすることであるから、必ずしも物理的なものとしての保全のみが正解ではない。記憶、写真、破片、図面、証言など、さまざまな形の継承でも未来に影響を与えることができる。

本報告書が、建築という物理的なものに関する、専門性を重視した写真、図面、作り手たちの証言の集積だとするならば、私が都城の二人の若い女性たち（川越祐子、傳田寿代）とともに始めた、フェイスブックによる「都城カタツムリくんと一緒に！都城市民会館1000の記憶プロジェクト」は、普通のひとびとの市民会館との関わりを集め、未来に伝えることを目的にしている。それぞれの人々の市民会館にまつわる写真やエピソードを集めるばかりでなく、近隣の小学生たちのスケッチ会、市民会館の花壇に花を植える、見学会、掃除、そして、お別れ会を企画した。

建物が残らなかったのはそれなりの理由がある。税金による経済的負担ももちろんないわけではないが、最大の理由はその建物への愛、大切だと思う気持ちが育っていなかったからだ。最後の看取りを経て、1000の記憶を集めるプロジェクトはこれからも地道にずっと続く。建物や樹木などが壊される前に、私たちはそのものの大切さを事前に育てておく必要がある。建築家の斎藤信吾さんの手を借りて、私たちは市民会館の破片から作ったコンクリートの塊に神様を勧請することにした。都城市民会館大明神と命名するその神は、建物を大切に思う気持ちを増幅し、都城だけでなく人類全体の将来の豊かさを導いてくれることであろう。



Fig.1-4.「都城市民会館1000の記憶プロジェクト」の企画による、お別れの会の風景



都城カタツムリくんと一緒に！都
城市民会館1000の記憶プロ
ジェクト
@denden0den

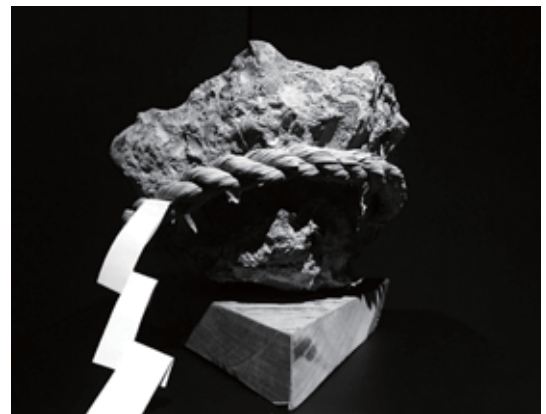


Fig.1-5.(左) フェイスブック上の「都城市民会館1000の記憶プロジェクト」の企画ページ (提供：川越祐子)

Fig1-6.(右) 解体破片から作った都城市民会館大明神 (作成：斎藤信吾)

はじめに

緒言

調査概要

調査結果

市民会館の活
用実績と閉館後
の保存活用の検
討経緯

資料編

はじめに

緒言

調査概要

調査結果

市民会館の活用実績と閉館後の保存活用の検討経緯

資料編

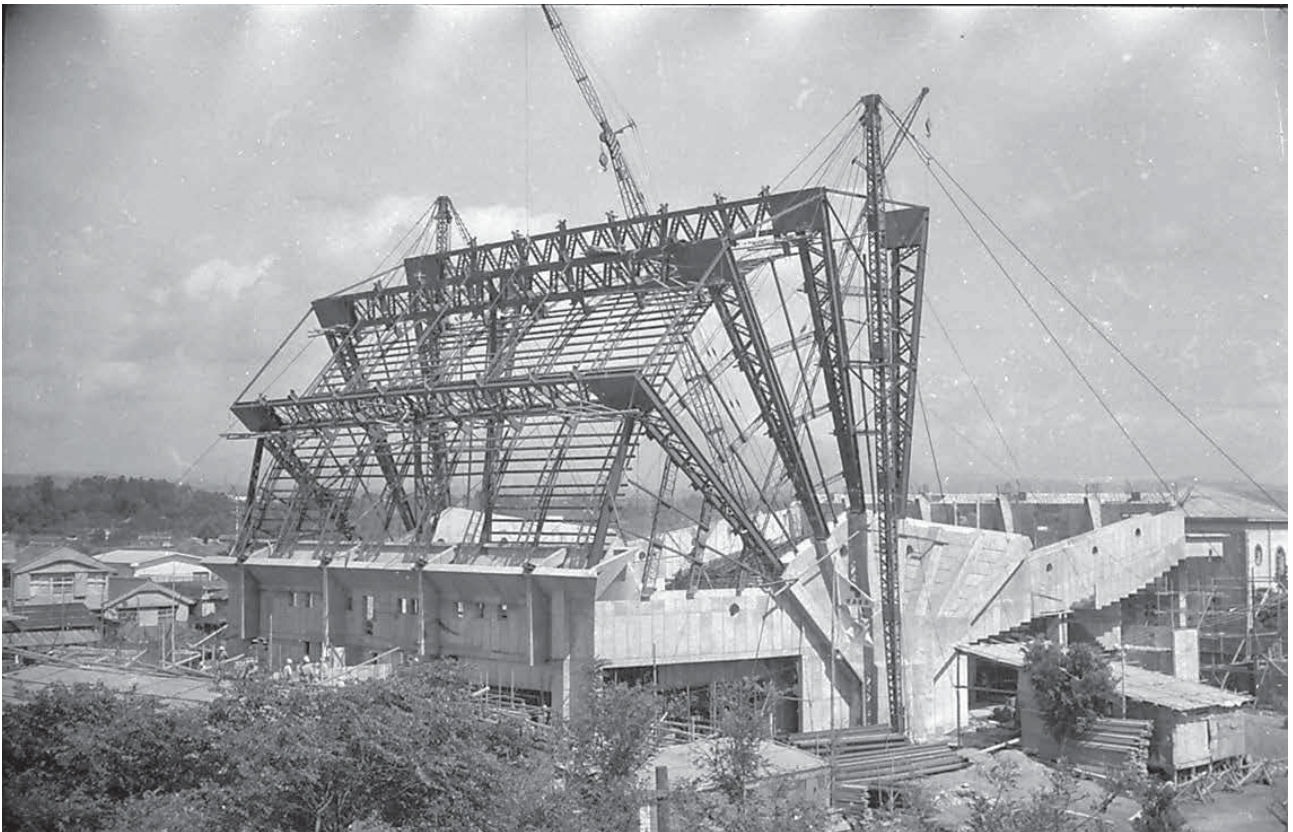


Fig2-0-1.1965年鉄骨建方工事の様子 所蔵：都城市